

第5回あきる野市公共交通検討委員会 会議録

日 時	平成31年2月13日（水）10時00分～11時40分
場 所	あきる野市役所5階 504会議室
出席者	委員長 小根山裕之 委 員 大久保春彦 竹之内正雄 原 清（※代理出席 川井氏） 郷野 隆司 榊原 秀明 奉壽 政弘（※代理出席 佐藤氏） 瀬戸 紀 柳瀬 光輝（※代理出席 石川氏） 大出 英祐 清水 保治 中西 宏 （欠席者：沖倉時代、寺尾一彦、田中信行）
事務局	企画政策課、地域防災課（関係課） 株式会社サンビーム（あきる野市公共交通検討支援業務受託業者）
傍聴人	9人

1 開 会	
事 務 局：	「第5回あきる野市公共交通検討委員会」を開催する。
2 挨 拶	
委 員 長：	<p>みなさん、おはようございます。</p> <p>本日でこの委員会も5回目となった。この間、後ほど報告があるかと思うが、公共交通優先検討区域の4区域（5地域）で各4回のワークショップが開催された。参加いただいた各区域の皆様、関係者の皆様のご尽力に、この場をお借りして感謝申し上げたい。</p> <p>また、アンケートも行われているので、アンケート、ワークショップの実施報告と、それらを踏まえて優先的に実証実験の対象とすべき区域の選定が今回の議題となっている。</p> <p>本日は、おそらく今年度で1番重要な会議になるかと思うので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。</p>
事 務 局：	本日の会議については、田中副委員長、沖倉委員、寺尾委員から欠席の連絡を受けている。
3 議事等	
(1) アンケート調査の実施報告について 【資料1】	
委 員 長：	本日は傍聴希望があり、これを許可する。
	※ 資料1を用いて、事務局から、アンケート調査の実施結果について説明した。

委員 長：	事務局から資料1について説明をいただいた。 質問、意見等があれば伺いたい。
委 員：	必要な時に利用できるドア to ドアのサービスというのは、どのようなイメージのものか。
事 務 局：	住民の方々のご意見であり、何か明確なものがあるわけではない。また、区域、あるいはワークショップ参加者によってもイメージは異なっている。住民の自主運行によるもの、タクシー代補助などのタクシーの活用等を含めて、何らかのドア to ドアのサービスがほしいということである。アンケートの選択肢としても、項目としても、それ以上踏み込んだ表現ができなかった。
委 員：	アンケートに示された時のイメージが知りたい。アンケートで利用意向を聞く設問の選択肢にドア to ドアとタクシーがあるため、ドア to ドアがどのようなイメージのものかを聞きたかった。
事 務 局：	先ほど申し上げた通り、ドア to ドアには、住民主体の交通とタクシーの活用の両側面がある。 後のワークショップの報告と関係するが、ワークショップの場においては、自主運行のものも含めて考えられていた。しかし、アンケートという紙面での質問では、ワークショップに参加しなかった方には、少し分かりづらかったという側面がある。今日の資料の中にはないが、実際、アンケートの自由意見の中に、「イメージがつかみにくかった」という回答もあった。
委員 長：	ドア to ドアの交通について「自宅の近くから目的地まで、必要なときに利用できる車両を運行する」と表現しているのであれば、受け取った方の判断に委ねられているというのが、今回のアンケートの実態だとご理解いただくしかないのではないかと。
委 員：	アンケートの全体の回収率は37%という報告があった。公共交通については、住民の関心が高いと思うが、それでもその程度かという印象である。説明では、30%を超えれば良いほうではないかということだったが、私は、もう少し高いと考えていた。
事 務 局：	アンケート調査の場合、設問内容以前に、調査票のページ数でも回収率は変化するので、回収率が高い、低いということは一概には言えないところもある。 自治体の住民意識調査でも、当市では、回収率が30%から40%程度であり、今回の公共交通のように、個別課題のアンケートになると、関心レベルによって反応が変化するため、一般的な住民意識調査よりは、回収率が低くなると予測していた。決して控えめではなく、せめて3割は回収したいということを目標として設定した。 なお、配布時には、できるだけ世代が均等になるように対象者を抽出したが、結果として、若年層の回収率が低く、その点も回収率の伸び悩みの一因と考える。
委員 長：	アンケートの内容を検討した際にも話が出たが、アンケートのボリュームがかなり大きいので、それだけで回答を敬遠してしまう人がいてもおかしくない。その中で30%を超えたというのは、感覚的には、比較的高いほうであると思う。

3 議事等	
(2) ワークショップの実施報告について 【資料2】	
	※ 資料2を用いて、事務局から、ワークショップの実施結果について説明した。
委員長：	事務局から資料2について説明をいただいた。 各区域住民の方が考える、区域に必要な交通サービスのメニューの案と、それらの導入の優先順位がまとめられた。 市としては、本委員会での検討結果を基に、公共交通優先検討区域における対策を考えていくということになるだろう。 意見、質問等あれば願います。
委員：	意見というよりも感想である。検討に際しては、どのようなシステムが本当に導入可能なのかということ的前提に意見交換されていたと感じた。 タクシー代の補助について、誰でも、これが本当に実現できれば1番良いと思うかもしれないが、これは、使えば使うほど費用が掛かるため、実現の可能性が低いのではないかと思っている。 他のメニューについても、ワークショップの参加者の皆さんは、経費面を意識しながら話し合いされていたので、皆さんとしては、消化しきれていない部分もあるのではないかと。 また、それぞれのシステムを導入するには、経済面も含めた実現の可能性を示す資料がある程度提供されないと、判断材料にならないのではないかと。 先に説明があったように、ドア to ドアのイメージについても、皆さんははっきりしていない印象があった。 つまり、「本当に実現するには、どのようなものが良いのか」という趣旨で検討されたとは思いますが、それにしても、参加者の判断材料になるデータがやや少なかつたのではないかと。これは単純な感想である。 今後、実際に導入するシステムを検討されていくのだと思うが、なんとなくもやもやして、不消化になるのではないかと気がしている。
事務局：	ご指摘のとおり、交通サービスを選定する際には、経費、法規制、実現可能性といったことを提示した上で選ぶ方法もあったかと思う。 一方、今回事務局は、なるべく制約を設けずに、皆さんの意見を聞き出したいということを最優先したが、ワークショップでは、行政の負担、特にタクシー補助では「使わないほうが経費が少なくなる」というような、行政は大丈夫なのかと気にかけていただく意見なども出てきた。 ただ、事務局として聞いたかったのは、「皆さんにとって、何が1番利用しやすいのか」「1番良いと思っているものは何か」ということであり、例えば経費や頻度の問題などについては、今後詰めていくことになる。
委員：	草花折立下区域は、参加人数が非常に多いが、参加者は固定か。
事務局：	ワークショップに参加された方々には、最初に、第1回から第4回まで連続して参加いただきたいとお願いをした。 そのため、欠席者はいるが、基本的には同じメンバーで4回を積み重ねたものをご理解いただきたい。

3 議事等	
(3) 公共交通優先検討区域における対策について 【資料3】	
	<p>※ あきる野市議会総務委員会から、「検討委員会で議論する際の参考としてほしい」ということで提供された、公共交通空白地域における対策に関する「調査報告書」を配付するとともに、その概要を説明した。</p> <p>※ 資料3を用いて、事務局から、公共交通優先検討区域における対策について説明した。併せて、優先検討区域のうち、「草花折立下区域」について、区域内の一部の地域しか対象とならないような印象を与えかねないことから、呼称を「草花折立区域」に改めたい旨を説明した。</p>
委員長：	<p>事務局から資料3について説明いただいた。</p> <p>それに先立ち、事務局から優先検討区域の呼称を区域の範囲に合わせて、改めてはどうかという提案があった。</p> <p>質問、意見等あれば伺いたい。</p>
	(異議なし)
委員長：	<p>では、「草花折立下区域」については、「草花折立区域」に改める。</p> <p>続いて、説明の通り本日は、当検討委員会として、実証実験の対象区域とすべき2区域を選定して順位付けを行う。</p> <p>また、それには客観的な視点が必要であろうということで、提案も受けたので、これに基づき優先2区域とその順位を考えていきたい。</p> <p>その前に、委員から議事に関係する意見をいただいているので、説明をお願いします。</p>
	※委員提出資料に基づき、当該委員から説明があった。
委員長：	<p>委員からご意見をいただいた。</p> <p>資料3で「選定の基本的な考え方」がまとめられているが、今、委員からは、これについて「非常に合理的なのではないか」という意見があった。</p> <p>まず、最初の「基本的な考え方」「選定の考え方」、あるいは、それを踏まえた4つの視点に対する「指標の案」の決め方に関して、ご意見いただきたい。</p>
委員：	<p>「選定の考え方」とか「優先順位の決め方」は、この客観的指標で非常に良いと思う。また、市議会の意見も踏まえると、秋川地区、五日市地区の両方で行うのが良いだろう。</p> <p>そもそも論ではあるが、五日市地区の深沢や網代は、人口が少なめであるという印象がある。以前の資料には、例えば、深沢の第1回、第2回のワークショップでは「自分たちで声を掛けて乗り合っている」という話も出ていたことを踏まえると、実証実験をしたとしても、使ってもらえるのかという懸念がある。</p> <p>実証実験をするのは問題ないが、使っていただきたいという希望を込めたい。</p>
委員長：	<p>「本当に使えるような形でやっていくには、どうしたら良いのか」というのは、実証実験における注目ポイントになるだろう。</p>
委員：	<p>「4つの視点」は全く問題なく、これによろしいと思うが、「緊急性」における高齢化の問題と、「重要性」における距離の問題は、前から分かっていたことではないか。反対意見ではないが、この点につき選定外となった区域に、どのように説明す</p>

	<p>るかを考慮いただきたい。当初から分かっていたことを、改めてどう理解してもらおうかということである。</p>
事務局：	<p>ご指摘の通り、高齢化の状況、最寄りのバス停・鉄道駅までの距離は、ワークショップが始まる前から出ていた。</p> <p>あえてこれらの指標を用いた背景として、まず、高齢化の状況については、今回のワークショップで「公共交通対策の対象者は、どのような方を対象とするのが1番良いか」と話し合っていたところ、「高齢者」「免許を持っていない方」が優先的に出てきたからというのが第一の理由である。</p> <p>例えば、もしこれが、どの区域においても「高齢者だけではなくて、全ての人が利用できるようにすべき」という意見になったならば、高齢化率以外の指標を用いるべきであり、ワークショップの成果としてこのような指標を設けたとご理解いただきたい。</p> <p>次の「重要性」である最寄りのバス停・鉄道駅までの距離についても、客観的に分かっていた事実ではあるが、同様に、ワークショップの中で「とりあえず駅まで行ければ良い」「近くのバス停までの足を確保してほしい」といったご意見が非常に多かったことを踏まえて、これについても着眼点にすべきとして用いることにした。</p>
委員長：	<p>距離や高齢化率は、ご指摘の通り前から分かっていたことだが、これを用いること自体がワークショップにおける取組の成果の一部とご理解いただくことでよろしいか。</p> <p>視点あるいは指標について「概ね妥当なのではないか」というご意見が多いかと思うので、これらに基づき区域を選定していく。</p> <p>あと、2区域ということについては、指標の上位2区域の結果や、先ほどの委員意見からも妥当ではないかと思うが、ご意見あれば願います。</p>
委員：	<p>実証実験ではコミュニティバスを走らせるということか。</p>
事務局：	<p>各区域のワークショップの成果として、それぞれの区域における交通の考え方が示されており、これに基づき、法令面、交通事業者との調整等の必要な手続きを経て、1番妥当なもの、最良のものを実施していく考え方である。</p> <p>ただ「基本的な考え方」に示す通り、2区域で実施する場合には、同じ交通メニューは使わないということである。</p>
委員：	<p>この場で区域についても協議するということか。</p>
委員長：	<p>その通り、優先2区域の選定とそれらに対する順位付けが必要である。</p> <p>2区域を選定するのであれば、指標からは、深沢区域と草花折立区域が該当するが、仮にこの2区域であれば、議会の報告書にある五日市地区と秋川地区から各1区域という提案にも合致している。</p>
委員：	<p>指標でもこの2区域が飛び抜けているので妥当だと思う。</p>
委員長：	<p>この2区域を選ぶことに異議はないか。</p>
	<p>(「はい」という声多数)</p>
委員長：	<p>では、この2区域に順位を付ける。これについてご意見伺いたい。</p>
委員：	<p>何をやるかは別だが、今までの話からすると、利用者の数などからも、草花折立区域が1番、深沢区域が2番ではないか。</p>

委員：	<p>利用者というご意見もあったが、その点では草花折立区域の人口が340人と多く、バス停までの距離は2位より10m短いものの、ほとんどの指標が1位又は2位である。</p> <p>いずれにしても、2区域で実施されたいと考えるが、あえて言うならば草花折立区域が1位ではないか。</p>
委員長：	<p>実際の利用者数など、様々な観点で草花折立区域を1番にしたらどうかと、委員から意見があった。</p> <p>他に、賛成反対いずれでもご意見はないか。</p>
委員：	<p>順位について発言はしたが、実際には順位を付け難く、2番とはいえ、深沢区域でも是非、実証実験をやっていただきたい。</p>
委員長：	<p>2区域での実施か否かは、基本的には、予算との兼ね合いで決まるのか。</p>
事務局：	<p>ここでは、公共交通検討委員会としての考え方をまとめていただき、事務局はその結果を理事者に報告して、市としての考え方がまとまる。その後、市議会での予算に関する議決を経て、最終的に何箇所の区域で、何を実施するかが決定することになる。</p> <p>既に説明した通り、実証実験は市単独では実施できないため、内容については、交通事業者、国、警察等との調整を経ながら固めていく予定である。</p>
委員長：	<p>予算との兼ね合いから2区域で実施できない場合もあり得るので、順位付けをするが、基本的にはできるだけ2区域で実施するという方向ということである。</p> <p>最終的な判断は当委員会の手を離れるが、うまく2区域で実施できるようにお願いしたい。</p> <p>草花折立区域を1番、深沢区域を2番にしてはどうかというご意見だが、それでよろしいか。</p>
委員：	<p>草花折立区域では、るのバスのコースを変更するということか。</p>
事務局：	<p>それは今後の検討となる。地域の希望では、草花折立区域での導入を検討されたい公共交通の1位がるのバスということである。</p> <p>一方、実証実験の実施に際し、るのバスはあきる野市の基幹交通の1つであることから、一定期間とはいえ、コースの変更、ダイヤの変更をして大丈夫かどうかということも検討の必要があるため、この場では断定できない。</p>
委員：	<p>1番順位が高いものを考えているという話であれば、草花折立区域は、るのバスということになるのではないか。</p>
事務局：	<p>諸般の影響、交通事業者との調整、法的検討等も兼ね合わせて、実施できる範囲内で、順位が最も高いもので実証実験を行いたいということである。</p>
委員長：	<p>説明の通り、基本的にはワークショップの中で示された順位を重視するが、実現性の諸要素を考慮しながら、実証実験を行うとご理解いただきたい。</p> <p>では、当委員会としては草花折立区域を優先順位1位、深沢区域を優先順位2位として、この2区域を選定することにご異議ないか。</p>
	<p>(「はい」という声多数)</p>
委員長：	<p>ありがとうございました。</p> <p>当委員会としては、草花折立区域を優先順位1位、深沢区域を優先順位2位とし</p>

	<p>て、2区域を選定した。</p> <p>事務局から何か、発言はあるか。</p>
事務局：	<p>ご議論に感謝する。1位が草花折立区域、2位が深沢区域ということで公共交通検討委員会としてのご意見として承った。この結果を理事者に報告し、先述の通りそれぞれのワークショップの結果を踏まえつつ、実証実験の方法を考えていく。</p> <p>委員からの「2番とはいえ、深沢区域でも是非、実証実験をやっていただきたい」というご意見についても、併せて理事者に報告する。</p> <p>繰り返しになるが、実証実験対象区域は2つとなったが、優先検討区域は残る2区域（3地域）もある。これらについては、引き続き対策を検討していく。</p> <p>また、ワークショップでは、地域主体の交通に関するご意見も出ていたことから、地域の方から、地域での取組に対する協力など、何か申し出等があった際には、市としても支援をしていくという考えである。</p>
委員長：	<p>事務局からの話のとおり、実証実験に限らず、今回のワークショップを機に、地域で新たな動きがあれば、是非、積極的な支援をお願いします。</p> <p>委員からの発表において「今後の検討として、市全域を対象として取り組むべきではないか」といった意見をいただいたが、これについては今後の検討課題として順次議論していくことになるだろう。</p> <p>この点につき、事務局から発言があればお願いします。</p>
事務局：	<p>委員からのご意見に感謝する。発言の中にあつた道路幅員に関しては、確かに事務局で配布した資料に基づき、ワークショップで説明した経緯がある。ご存知の方もいるかと思うが、草花折立区域では、かつて、るのバスを通す話があつたが、その際に市が検討した結果、通すことができなかった。そのときの理由が、資料のとおり道路幅員とバス停設置場所の問題であつた。</p> <p>ただ、ワークショップにおいても、区域の意見として「やはり、るのバスを」というご意見であればそれは受け止め、道路幅員等についても再度検証する必要があると申し上げている。委員からの意見についても、今後の公共交通対策における中長期的な検討の中で精査していきたい。</p> <p>また、今後の予定について、実証実験は今後、個別に交通事業者、警察、道路管理者、国と調整しながら準備をしていくので、その節目には検討委員会を開催し、ご議論いただくことになる。また、実証実験を実施しない区域での対策や、市全域での対策についても考える必要がある。公共交通対策については課題が山積しており、随時ご議論いただく必要があると考えている。</p> <p>個別のご相談や委員会でのご議論について、今後ともご協力をお願いしたい。</p>
4 その他	
(1) 第4回公共交通検討委員会の会議録について 【資料4】	
事務局：	<p>前回会議録については、案段階のものを委員各位に確認していただき、意見等がなかったことから、資料4をもって最終版とする。</p>
4 その他	
事務局代表発言	
事務局代表：	<p>審議に御礼申し上げます。</p>

	<p>来週2月20日から市議会3月定例会議が開会される。本日、各議員宛に、予算案を含めた議案を送付した。来年度の公共交通対策に要する経費については、1千万円強を計上しており、その中には実証実験の経費も含んでいる。</p> <p>実証実験の方法、実施箇所数については、ワークショップで出たご意見を参考にするとともに、理事者に当検討委員会での議論の内容を伝え、より良い方法で実施していく所存であるので、ご理解いただきたい。</p>
4 その他	
次回委員会の日程	
事務局：	次回会議の開催時期については、追って調整させていただく。
5 閉会	
事務局：	以上で、第5回公共交通検討委員会を終了する。